

科学館運営理念及び運営方針に基づく評価項目

福岡市科学館では、運営理念「人が育ち、未来をデザインしていく科学館」のもとに6項目の市民との「約束」（「運営方針」）を定めており、それぞれに指標を設定している。これらの達成状況について事業者の各種報告書や実地調査、ヒアリングをもとに評価を行った。

【評価の区分】	
A	優良：目標を超える成果を挙げている。内容が特に優れている。
B	適正：計画に即して目標を達成している。内容が適正である。
C	要改善：目標が達成できていない点がある。もしくは内容の改善が必要である。

運営方針	活動計画	計画の構成	市評価	市総評
1	科学を担う人やクリエイターなどと市民とが交流することによって、新しいサイエンスコミュニケーションのあり方を提案していきます	1 福岡市科学館や福岡などで活躍するサイエンスコミュニケーターを養成します 2 人と人(スタッフを含む)の交流の機会を設定していきます 3 九州大学を始めとする研究機関と連携を強め、人の育ちにつながる新しい教育プログラムなどを開発・提供します 4 研究者やクリエイターに出会える場のあり方を考え、このような場づくりに取り組みます 5 若手クリエイターの創造活動を活性化させる事業を行います 6 科学、音楽、アートなど様々な分野のスペシャリストとのコラボレーションや市民の参画により、独自のイベント・番組を企画・実施します	B	セミナーや講座、サイエンスカフェにおいて、幅広い年齢層を対象に、様々な分野の専門家を招いた魅力あるプログラムを展開した。また、研究活動等を通して、サイエンスコミュニケーターの資質向上に努めるとともに、サイエンスコミュニケーションに関する講座やサイエンスカフェを展開し、サイエンスコミュニケーションの考え方や学ぶことの楽しさを参加者に伝えることができた。今後は、各種団体とのさらなる連携強化等により、魅力あるプログラムの開発に努められたい。
2	幼児から高齢者までに対応する展示とプログラムを充実することによって、すべての人が科学を楽しみ、創造するよろこびがある科学館をつくれます	1 各事業ごとに科学者や利用者の交流の質を上げたプログラムを企画・実施します 2 広く多くの人が科学に興味を持てるように、バランスのとれた展示を企画し実施していきます 3 市民参加を含む双方向性のある中高校生・大人向け企画を充実していきます 4 幼児から大人まで幅広い年代が科学の関心を深めることができるプログラムにとりくみます 5 基本展示室では、福岡市科学館独自のものを含む魅力ある展示アイテムへ更新します 6 創造までを目的としたプログラムや、応用力を養成するプログラムも開発・実施します	B	新たな試みとして、大人のみを対象としたサイエンスカフェを開催するなど、さらなる利用者層の拡大に努めた。また、特別展においては、子どもから大人まで、幅広い世代の方に関心を持ってもらえるよう関連イベント等を実施し、アンケート調査における満足度も高かったことは評価できる。しかし、一部の特別展については集客が伸び悩んだため、原因を分析するとともに、次年度以降の企画内容に活かしていただきたい。基本展示の更新については、一部計画の遅延があったため、今後の展示の更新においては、計画的に取り組んでいただきたい。

運営方針	活動計画	計画の構成	市評価	市総評
3	子どもたちの好奇心・疑問・考える力・創造性が育つ機会を提供することによって、一人ひとりの科学する力が伸びることに寄り添います	1 表彰などのインセンティブを用いながら、科学への受け身的態度から主体性を持った関心を引き出すような取り組みを進めます 2 ひとりひとりの好奇心に対応していくように、子ども・市民の参画活動に積極的に取り組みます 3 話題性のある科学情報や最新の科学情報、季節にまつわる科学情報を取得し、来場者の関心を深めるよう工夫した発信を行います 4 多様な科学の事象に知的好奇心を持ち、自らが探究することを充実させるプログラムを実施します 5 宇宙や天文に関する最新の情報や話題を、来場者の関心を深める手法で企画・実施します	A	フィールドワークや科学実験プログラムでは、身の回りの自然や生活をテーマとした題材を取り上げ、理科が苦手な子どもも好奇心が沸くような、多彩なプログラムを提供した。 子ども参画の事業として実施している「キッズクルー」事業については、令和4年度より参加者を増やし、科学館のスタッフとして運営に携わってもらうことで、子どもたちの考える力が育つ機会を与えることができた。 ドームシアター事業については、オリジナル制作番組において、天体観測に関する情報を記載したハンドブックを独自に作成・配布し、好評を得た。
4	多様な市民、科学者、教員、保護者などと科学の協働プログラムを開発することによって、子どもたちが社会のなかで成長できる環境づくりに貢献します	1 未利用者との新たな関係づくりにアプローチします 2 モデル校と科学のイベント・プログラムを協働で実施しながら、教育現場と連携を強化し、科学の協働プログラム開発につなげます 3 ユニバーサルミュージアムを目指した取り組みを進めていきます 4 科学館事業等で習得した知識やスキルを活かす事業を推進します 5 市民(学生やサポーターを含む)のアイデアを取り入れた福岡市科学館独自のイベント、プログラムを実施します	B	アウトリーチ活動については、要求水準以上の回数を実施し、科学館に来たことのない子どもたちに対しても、積極的に科学体験の場を提供した。 一日学習においては、市内小学校4年生向けに実験教室や学習投映などのプログラムを提供し、考える力や創造性が育つ機会を提供した。 館内リーフレットの更新においては、従前は言語ごとに作成していたものを、2次元バーコードを活用し、オンライン上で閲覧できるように仕様を変更するなど、アクセシビリティの向上に対する工夫が見られた。 特定の学校で実施している実証的な取り組みについては、今後、他の学校へも広げていくことを期待する。

運営方針	活動計画	計画の構成	市評価	市総評
5	福岡の人、モノ、コトなど、様々な資源を活用することによって、市民が科学的な視野で地域とその未来をデザインし、発信する活動を支援します	1 九州大学を始めとする研究機関の研究者や有識者と共に地域の資源を活用したプログラムで、参加者と共に未来の福岡を考え、社会をデザインしていくことを実施します 2 さまざまな科学技術や地域資源の情報発信・活用等を行い、地域文化の魅力を促進します 3 科学館連携ネットワークやその他個別の連携・協働を、面の広がりとして構築・推進します 4 地域や産業の活性化、教育や福祉分野への支援活動を充実させることで広く産業界や地域の人々への貢献を行います 5 市民参加の活動や科学館プログラムの成果を人々の成長の記録としてアーカイブ化します	A	福岡市の「水素リーダー都市プロジェクト」や「認知症フレンドリーシティプロジェクト」と連携した講座を実施し、市の取組みについて、市民に広く知ってもらえる良い機会となった。 また、企画展「はっけん！福岡のすごい石展」では、少年文化会館時代からの所蔵資料を活用するだけでなく、愛好家団体と連携して、あまり知られていない市内の石や鉱物について紹介した。 今後も積極的にネットワークを広げ、連携することで福岡市の魅力発信に繋がっていただきたい。
6	利用者との対話・交流を進めることによって、施設や事業の改善に努め、日々進化する科学館を目指します	1 独自の外部評価委員会による事業評価を行い、改善を進めます 2 福岡市科学館の運営方針を検討するサイエンスコミュニケーション開発会議の円滑な運用に努め、プロジェクト分科会で有識者意見を取りまとめます 3 多くのリピーターを獲得していくため、来館者、運営サポーターと科学館スタッフからの意見聴取を行い、意見・要望には真摯に対応し、共に科学館を創っていくという参画意識を醸成していきます 4 個別にアリングも含めた利用者アンケートを作成し、アンケートやモニターの結果から真の意見・要望の掘り起こし、丁寧な対応で「科学館ファン」に繋がります 5 専門知識習得やよりよい来館者対応のため、スタッフ・運営サポーターに対する研修を定期的に行います 6 半年に1度面談を行い、スタッフの成長につなげ、職場環境の改善を図ります	B	外部の有識者を招いた評価委員会や運営改善のための会議を事業者が実施し、科学館外からの意見を積極的に取り入れ、改善に繋がった。 また、利用者アンケートの満足度は95%と高い水準を示しており、各分野において質の高いプログラムが提供できていると推察される。 一方で、不満や改善を求める意見もあるため、真摯に受け止め、魅力ある科学館となるよう取り組むとともに、引き続きアンケート取得率の向上に努めていただきたい。